

令和2年度 第1回 廃棄物減量推進部会会議
発言要旨

【日 時】 令和2年8月28日（金）10：00～12：00

【場 所】 西宮市役所813会議室

【出席者】 全19名（名欠席者1名）

【会議の概要】

会議成立の確認

環境計画推進パートナーシップ会議委員7名中6名、委員外委員3名中3名の出席があり、会議が成立している旨の報告が行われた。

1. 委員及び事務局職員自己紹介

2. 令和元年度第3回廃棄物減量推進部会の発言要旨の確認

①資料2の令和元年度第3回発言要旨の確認を行った。

3. コロナ禍における事業系廃棄物対策の方針について

①事務局から資料3に基づき説明が行われた。

・事業系ごみは、4・5月は目標を達成しているが、6月が増えている要因は分かるか。（委員）

→緊急事態宣言終了により自粛が解除されたこともあり、6月から経済活動が徐々に戻っている状況にある。7月の速報値でも6月と同程度になっている。ただ、昨年同月比では90.4%程度と少ない。

（事務局）

→経済が戻ってくると目標達成は難しい現状があることが分かる。

（委員）

・事業者の負担が大きくなるからという理由は理解できるが、西宮市の料金は隣接地域と比べて安いので他市のごみが持ち込まれているという話があった。これについてはどう考えるか。（委員）

→確かに疑わしい事業者もいる。その点については料金改定によって抑制できると考えていたが、その方針を変更したので、受付の時点でのチェックを強化していきたい。（事務局）

4. 廃棄物の処理及び清掃に関する条例改正について

①事務局から資料4-1及び4-2に基づき説明が行われた。

・この資料は誰に向けてどのように届ける予定か。（委員）

→今の予定では、10月末頃から1か月、パブリックコメントを実施するが、10月25日号の市政ニュースにパブリックコメントの実施について公表し、ホームページからの素案ダウンロードや、本庁、支所、サービスセンターに冊子を用意しておく。また、新しい試みとして、

LINEを使って意見を求めるようにしたいと考えている。対象は全市民になる。（事務局）

- ・非常に多くの情報が載っており、データもきちんとあるので、分かる人には分かりやすい資料になっているが、一般の市民が読む場合、市が届けようとしている情報がうまく届くかどうかを心配する。例えば5ページのごみの処理経費も、文章として書くと分かりやすい。届けたい情報が目に飛び込んで来るようにする必要がある。11ページの収集形態の変更も、黄色くハイライトしているのはいいが、現状と見直し案が同じように書かれているので、見直し案のほうを大きくするなどの工夫をしてほしい。（委員）

→相当興味のある人や利害関係のある人しかこれは読まないと思う。

よくできた報告書になっているが、なぜこれがこうなのかが全部説明文になっているので、それほど関心のない人は見ただけで閉じてしまう。A4一枚に結論だけ書いて、そこで興味を持った人に本編も読んでもらうようにしたほうがいい。市民からすると、収集区分と収集頻度が変わることが一番関心のあることで、その次は指定袋の件である。そのあたりをエグゼクティブサマリーとしてつくればいい。LINEで意見を集めようとしているが、この資料の形では内容を読んでもらえない。（委員）

→概要版もつくる予定であるが、まずは本編について議論していただかないと概要版も作成できないので、この形で提示している。（事務局）

→例えば「指定袋」の字体を変更するなど、言いたいことをアピールする。分別が変わることをコンパクトにサマリーにして、それに関心を持てば本編を読んでもらうという3段構えぐらいの感じで市民の声を反映できればいいと思う。（委員）

→市民に見せるときに何を訴えたいかがポイントになると思うので、全体の説明資料としての位置づけと、アピールして理解してもらう部分を明確に分けて、ぱっと見たときに今回何が問われているかがすぐ分かる情報の出し方をしてほしい。（委員）

- ・令和8年度からペットボトルと缶を一緒に収集することになっているが、私は違和感を覚える。ペットボトルは、中を洗って乾燥させた状態で出しているが、缶を洗う人は少数である。それを一緒に出すことをどう説明するのか。（委員）

→この変更に関しては、ペットボトルの収集が月2回しかないので排出する機会を増やすために、缶と一緒に出していただくことを考えた。汚れがあったとしても、缶とペットボトルを混ぜても処理施設では自動的に分けることは可能である。収集回数を増やして少しでも多くのペットボトルをリサイクルするためにこのような収集形態にした。（事務局）

- 技術的に分別は可能かもしれないが、意識の向上を啓発している者としては、理解するのに時間がかかると思う。市民が納得できるような説明を考えてほしい。（委員）
- 駅のごみ箱でもペットボトルと缶・瓶を別に行っていることが多いので、一緒にしてしまうことに抵抗感があるのは分かる。（委員）
- 一般市民はためて出すという意識のほうが強いので、月2回でも不便は感じていないと思う。（委員）
- プラスチックを減らそうという時代にペットボトルの収集を増やすことが適切な対処方法なのかと思う。（委員）
- 今ペットボトルは膨大に使われていて、平均的に1日1本は出しており、ほとんどペットボトルを買わない人もいるので、大多数のペットボトルは多量消費者が出している。そういう人たちを対象に収集を考えなければいけない。月2回では部屋にあふれて「もやすごみ」に混入されてしまう。（委員）
- ごみの組成分析では、「もやすごみ」の中にペットボトルが多く混入している。収集回数を増やすことでそれを回収したいと考えている。週1回収集の他市では1人当たりの排出量は西宮市の倍になっているので、収集回数と収集量は関係がある。（事務局）
- ・この話の最初は、ペットボトルは洗って出すが、缶は洗われていないので、汚れがペットボトルに着くというところから始まった。ペットボトルも洗わなくていいのかという話になるので、市民としてはそこを疑問に感じている。（委員）
- 市民からは、ペットボトルと段ボールの収集回数を増やしてほしいとの声をよく聞く。市民の方がどれだけ缶を洗わずに出しているかは分からないが、袋収集になるからといって、今まで洗っていたものを洗わなくていいという広報はしないので、今後も引き続き、ラベルとキャップを外して、洗って出してほしいという説明はする。収集にかかるコストや道路上のごみステーションに長い時間ごみを置く問題もあるので、最低限の種類に抑える必要もある。（事務局）
- 冷蔵庫に貼る一枚物のチラシの中には、ペットボトルは洗って出すように書いてあるが、缶についてはない。（委員）
- 「ハローごみ」の中には、瓶・缶などを出す前には中身を取り除いて水で洗ってくださいと表記しているが、見せ方が悪いと思う。次の「ハローごみ」では工夫したい。（事務局）
- リサイクラーの保管場所へ行くと、自治体名が書いてあるが、きれいさが全く違う。（委員）
- ・今の西宮市の区分では、金属缶は「もやさないごみ」に区分されており、不燃物でそのまま埋め立てるものという印象を与えてしまう。しかし、金属缶をそのように捨てるわけがなく、施設内で資源化してい

る。そのことがどこまで市民に周知されているかである。恐らくあまり意識されていないので、缶を洗って出すという習慣がないと思う。次からはペットボトルと缶が一緒になるので、明らかに資源ごみになる。これからは資源ごみとして収集するから軽く洗ってほしいという話はメッセージとして出しやすいと思う。（委員）

→一般市民にとっては、技術的に処理できるかという話とどのように出すかという話が別個にあり、最終的にはごみを減らすという話になるので、まずは資源として認識してもらうことが非常に大切になる。今ペットボトルが少ないのは「もやすごみ」に混入しているからなので、これを資源ごみとして認識することによって取り出せる。また、資源としての認識が薄い缶も、これを機会に資源としての認識を持ってもらえば、洗って出すことになると思う。これによって最終廃棄物を減らす方向に持っていける。今回のいろいろな変更は本当にチャンスである。説明会の中では、分け方だけではなく、いろいろな意見が出てくると思うので、ぜひ啓発に使ってほしい。（委員）

- ・私たちの頭を切り替えないといけないという意味で言うと、「ごみ」という言葉のつくものとは何かを明確にすることだと思う。「燃やすもの」は焼却灰になって最終処分場で埋め立てるが、それ以外のはすべて「ごみ」なのかと考えると、「資源物」と「焼却するもの」とに大別できる。出す側が「ごみ」ではなく「資源」を出しているという意識になるためには、分別収集区分の前提として「資源物」と「焼却するもの」という2区分を置いて、「ごみ」という言葉は使わないほうがいい。そこをしっかりと分ければ今言われたことは明確になるし、今までの分け方との違いも言えると思う。

これから技術が進んで、ラベルもキャップも一緒に出しても自動的に分別できるようになれば、市民の意識の部分と市民の負担の部分の整理をきちんとしておかないともれが出てくることになる。自治体として廃棄物の問題をどのような問題として市民に投げかけ、新しい施設を造って解決していくかとなったときのスタンスの部分が重要になると思う。だから、「ごみ」という概念のものをどうさばいて、「ごみ」ならこうだが、「資源」は価値を高めるためにこうしてほしいと明確に言えるように、今だからこそきちんとうたっておかないと、余計に市民が混乱することになる。考え方が大きく変わったことを最初に言ったほうがいいと思う。（委員）

→「ごみ」は「燃やす」か「資源」としてしまうと、燃やすことのできない例えば電池などはどうなるのか（委員）

→適正処理をしなければいけない有害物もあるので、そういうカテゴリーをしっかりとしないといけない。今は、昔からの「燃やす」か「燃やさない」かの延長線上でカテゴリーだけを分けてしまっている

るから、もう少し大きな位置づけの言葉で整理したほうがいいと思う。（委員）

→カテゴリー分けは非常に大事だと思った。（委員）

→「資源ごみ」ではなく「資源物」として、捨てるものと資源化するものにはっきりと分けてほしい。（委員）

→西宮市民のモラルや意識は非常に高いので、「資源」という位置づけは非常に大事だと思う。施設の名称も、「資源循環センター」や「リサイクルセンター」など、リサイクルすることが目に見えるようにするほうがより浸透しやすいと感じた。（委員）

→現在、施設基本計画を検討中であるが、名称も併せて考えていきたい。他の自治体では「リサイクルセンター」や「リサイクルプラザ」として、リサイクルすることが伝わるようにしている。（事務局）

→市民の方には、「破碎選別」ではなく、破碎選別してからどうするのかをストレートに分かったほうがいい。（委員）

- ここ数年来、プラスチックのリサイクラーのところでリチウムイオン電池の発火が多く起こっている。施設が燃えて廃業したという話まである。例えば電子たばこなど小さいバッテリーが入っているものをごみの中に入れていないことがポイントで、今回のような変更の時期には市民は聞いてくれるので、チャンスである。カテゴリー分けで言うと、「資源」でないことは明らかで、そのあたりも整理して、そこを意識して例示を考えたらいいと思う。（委員）

→リチウムイオン電池の関連で電子たばこの例を挙げられたが、これは大切だと思う。ほかにそういう例はないか。（委員）

→最近、リチウムイオンバッテリーが安くなって小さくなったので、あらゆるものに使われるようになった。小さなもので電気を使っているようなものは全部危険な可能性はある。数が多くて典型的なのは電子たばこだと思う。（委員）

→電池を分けることは市民も分かっていると思うが、小さなものの中に入っていると思わないので難しい。（委員）

→電池を交換するようなものは分かるが、リチウムイオンバッテリーは寿命がある程度長く、使い捨てが原則なので、意識されていない可能性はある。携帯電話ぐらいになると回収することが広がっているが、電子たばこは不手際な処理である。（委員）

- 本当は生ごみも「資源」である。そこは一気にいけないとしても、子供たちに教えるときには、土に帰るものを焼却するのはどうなのかという投げかけはするが、西宮市の都市規模・構造から言うと燃やさざるを得ないという考え方もある。市民が考えるカテゴリーの中には入ってこないが、教育の中には入れておかないといけない。（委員）

→環境教育の内容も、資源は分けよう、それが地球規模で求められて

いると子供たちに伝えていただけるとありがたい。子供が学校で教
わってくると、家族は素直に聞くので効果が大きい（委員）

→2 ページの下の方を見ると、生活系ごみの1人当たりの排出量は
年々減少しているが、近年は横ばい傾向が続いていることが気にな
っている。市民の中で環境意識が高まっていた時期はあったが、
最近ではマスコミで取り上げられることが減って、しぼんでしまっ
ているのではないかと思う。子供たちが学校で勉強してくれば、ご家
族も意識が高くなるので、環境教育に頑張らなければいけないと思
っている。ただ、学校でも、ICT教育やプログラミング教育、外
国語教育が入ってきて、環境教育が相対的に下がってきているのが
現状である。教育委員会としても、適切に指導することで学校現場
での意識をさらに高めていきたい。小学校4年生でごみの勉強とし
て西部総合処理センターなども見学に行くし、学校でもごみの分別
の仕方を教えるので、「ハローごみ」を子供にも分かりやすく紹介
してほしい。（委員）

→いろいろな自治体で環境副読本を作っているが、西宮市は環境学習
都市であるので、「わたしたちの西宮」の中に入っている。これを
うまく使うと、環境のことは環境部署に任せておくのではなく、S
D G s のように全体として考えることにつなげていけると思う。
（委員）

- ・ 私たちは環境作品展を開いているが、環境活動のお手伝いをし、地
域のお手伝いもしたいと思っているので、地域の人たちへの学習会をつ
くってほしい。今回のことをきっかけに、そういうところで子供たち
と一緒にごみのことを考えるようにしてほしい。（委員）

→市民の方が熱心なのは本当に宝である。（委員）

- ・ 一般ごみの出し方について指導するのはごみ減量等推進員が中心にな
っている。実際に市民を動かすのはそのメンバーの力を頼りにしないと
広がらない。指定袋についての情報も、2月に一度説明があつて中
途半端なままになっている。日程から見ればあと1年半しかなく、市
民の協力なしにはうまくいかないのでは、早く概要版を作って、ごみ減
量等推進員に広めてほしい。（委員）

→実はコロナの影響でパートナーシップ会議が1回飛んでしまったの
で、事務局には苦勞をかけたと思う。この機会にいい意味で浸透す
るようにしてほしい。（委員）

- ・ いまだにアルミ缶の持ち去りが行われている。コンテナから袋になれ
ば、それは防げるかもしれないと思う。（委員）

→現在はコンテナなので持ち去りやすいかもしれないが、今後は、袋
収集で、しかもペットボトルと一緒にになるので、持ち去りにくくな
るかもしれない。これは実際にやってみないと分からない。（事務局）

- ・新聞で、プラスチックごみを容器包装プラとその他プラを一緒に集めるという政府の発表が載っていた。それがいつから始まるのかによって提案する中身も変わってくる。その政府動向を教えてください。（委員）

→結論から言うと、環境省はその方向に持っていきたいが、ごみ収集は自治事務なので、補助金などで誘導することはできても、各自治体に義務づけることはできない。製品プラの一括回収もそれ以上にややこしい。容器包装プラは製品を使っているメーカーがリサイクル費用を負担することになっているが、製品プラに関してはその費用を誰が負担するのかの問題がある。製品プラで容器包装プラと同じような仕組みをつくることは理論的には可能だが、輸出入のことを考えると絶対にできないと個人的に思っている。廃掃法などの改正となれば5年、10年の話になるし、それよりも手前でメーカーや消費者に使った量に応じてお金を集める仕組みがつかれるとは到底思えない。消去法でいくと費用を負担するのは自治体しかない。容リ法では、その他プラを集めて保管しておけば落札業者が持って行って利益を得る。もし西宮市がプラの一括回収をすれば、今より2～3割増しで集まるが、その部分については西宮市がお金を出さないと参加できない。そういう自治体の負担があるのに環境省がやれとは言えるはずがない。メディア報道ではあたかも全国的に環境省がやらせる方向だとなっているが、何を考えているのかと思った。あれだけぶち上げた以上、環境省も経産省もそれなりのめどはあると思うが、それは非常に条件のいい自治体である。製品プラ一括回収を細かく設計しようとする、異物混入などの条件を緩和して自治体の品質保持の義務を外さなければならない。合理的にやるのなら、自治体で選別保管施設を持たずに、リサイクラーへ直送できれば安くなる。ただし、2割増えた分のリサイクル費用は自治体負担する。この2割プラス搬送費と選別保管ラインを省略できるのどちらかが得かになる。そういう自治体はそれほど多くないと思う。（委員）

→集めたものをそのままリサイクラーに搬入するのか。（委員）

→そうなるが、それは今の容リ法の枠から外さないとできない。よって、容リ法の外側か内側で特例をつくるしかない。（委員）

→いずれにしても、全国でやるという話には絶対になりそうにない気がする。（委員）

→環境省はそちらのほうが合理的だと言っているが、製品プラに関して自治体が費用を負担するのは無理だろうと思う。（委員）

- ・指定袋にバイオマスプラを使うとなっている。神戸市は10%のものを使っているが、単価が倍になったと言っていた。バイオマスプラは製品になると普通のプラと分からなくなるので、製造段階で保障される

- 性質のものである。ここでいろいろな心配が出てくる。（委員）
- 大洋州の国では、埋立て処分場が造れないので、袋はバイオマスプラに制限しているところもあるが、検査機関もないので確認ができない。触り心地のレベルで通ってしまっている。（委員）
- 神戸市の袋をもらったが、触り心地は変わらない。（委員）
- 生分解性プラは、土に埋めて分解しているかどうかを見れば分かるが、バイオマスプラはバイオマスでつくったポリエチレンなので、できたものはポリエチレンでしかない。内容を分析しても分からない。（委員）
- 国はそういうことが分かって指針を策定しているのか。（委員）
- そこまで心配はしていない。業界の規格は作っているが、それにどれぐらいの実効性があるかは疑問である。（委員）
- 生分解性なら明らかに自然に戻るメリットがあるが、バイオマスを10%入れることがコストに見合う意味があるのかと思ってしまう。しかし、やらざるを得ないので、やるからには注意してほしい。（委員）
- ・コロナの影響で事業系ごみは減っているという報告があったが、内食や中食が増えて、私たち小売業はごみが増えているし、家庭から出るごみも、テイクアウトが増えたことでごみの出どころがシフトしている。組成分析もコロナの影響で大きく変わっていると思うので、少し気になる。また、7月1日からレジ袋有料化がスタートしたので、それによってどういう影響があったのかも気になる。（委員）
- コロナがプラスチックのリサイクルに大きな影響を与えているので、容りのプラを集めているところは収集量が7～10%増えている。ペットに関しても、事業系については、6月は激減して8割減で、一方で生活系は7～10%増えている。その影響もあって、ソフトドリンクの販売も、4・5月で8割減のところもあった。それが5・6月に少し戻ったが、自販機が壊滅的で、自宅ユースの大型ペットが増えた。（委員）
- その分、廃棄物としては減ることになる。（委員）
- 付言すると、再商品化したペットのシートはそれなりに売れたが、ボトル・ツー・ボトル用のリサイクルシートは高値維持、ただし、長繊維用のナイキやアディダスが外国から買ったものは完全に止まった。（委員）

5. 今後のスケジュール(案)について

- ①事務局から資料5に基づき説明が行われた。

6. その他、連絡事項

- ①事務局から、次回部会は令和3年1月頃に開催予定であるとの報告が行われた。